課題別評価表　　令和６年度

知　　育

R６活動計画	①練習問題に取り組む時間を確保するとともに、短時間にできるマス計算やミニ漢字テストなどを継続的に取り組む。 ②意見を集約したり、考えをわかりやすく表現したりするために、指導法を工夫する。 ③様々な学習形態を取り入れ、主体的に学習へ取り組む意欲の高揚に繋げる。
R６評価指標	①「これまでに習った文字や漢字を使うことができる」また、「これまでに習った計算ができる」児童が 80 %以上。 ②聞いたことや伝えたいことを自分の言葉でまとめたり、表現したりできる。」児童が、60 %以上。 ③「１時間に１回は進んで挙手できる」児童が 80 %以上。
R６実施状況・達成度・評価・課題	①児童・保護者・教職員ともに 80 %以上達成できたと考えている。しかし、「少しそう思う」が「そう思う」より多く、定着の度合いに差があるのではないかと思われる。「漢字を使うことができる」という表現がわかりにくいので、達成できた状況がわかりやすい表現に変える。 ②６０%以上は達成でき、表現しようとしている児童が増えたように思われるが、まだまだ十分ではないと感じられる。 ③アンケート結果では、児童 63.5 %・教職員 72 %と、80 %以上は達成できなかった。しかし、「伝え合い」や「ペア学習」など、授業形態の多様化により、挙手する場面が減ったからではないかと考えられる面もあり、単純に主体的に取り組めていないとは言えないと思われる。	【総合評価】 B
R６学校関係者評価	・授業における「ユニバーサルデザイン」の実現：授業に苦戦している児童に注目する。また、特別支援教育を核として、すべての児童のために、より意識化・構造化した授業をめざしてほしい。 ・マス計算やミニ漢字テストで漢字や計算の力が伸びているようなので、続けてほしい。「習った漢字を使うことができる」や「習った計算をすることができる」において、「そう思わない」児童の理由を考えていく必要があるのではないか。 ・多くの児童が、楽しく学校生活を送れていることを地域の大人として嬉しく思う。「そう思わない」「あまりそう思わない」と答えた児童の声を聞きたいと思った。

備考【「総合評価」における「評定」の基準】

Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

課題別評価表　　令和６年度

徳　　育

R６活動計画	①気持ちのよい挨拶や場に応じた言葉遣いなど、望ましい行動の仕方を身につけさせ、よりよい人間関係の構築を図る。 ②教職員全体で共通理解を図るとともに、支援方法の研修を行いながら、それぞれの違いを尊重し、個別最適な学びを実践する。
R６評価指標	①児童・保護者・教職員のアンケートで「気持ちのよいあいさつができている」「言葉遣いに気をつけている」と感じるが８０％以上。 ②教職員のアンケートで「個々の児童の違いを尊重し、個に応じた指導をしている」と感じるが９５％以上。
R６実施状況・達成度・評価・課題	・「気持ちのよいあいさつや言葉づかいができる。」 児童…あいさつは 80 %以上ができている。言葉づかいは、90 %ができているとした。児童の取組や教職員の関わりによってあいさつの大切さを実感させたい。 保護者…あいさつ・言葉づかいともに 80 %以上できているとみている。特に、言葉づかいに対する見方が厳しいのは、家庭内での児童間の発言内容からの心配も考えられる。 教職員：80 %ができているとみているが、昨年よりさらに見方が厳しくなっている。今後の取り組み方を考えるとともに、児童を認める機会を増やすことも必要と思う。 ・「職員全体で共通理解を図り、支援方法の研修を行いながら、それぞれの違いを尊重、個別最適な学びを実践する。」 研修の機会が昨年より減ったため、「そう思う」より「少しそう思う」が多くなった。しかし、100 %を達成している。来年度の算数の大会を見据えると、共通理解や児童の対応等、日常の職員間の会話や情報の共有がより大切になってくると思う。	【総合評価】 B
R６学校関係者評価	・人権教育に、①アサーション②エンカウンター③ピアサポート　等を取り入れた学習を行い、いじめや不登校の減少をめざしてほしい。 ・挨拶は、コミュニケーションの始まりなので、身につけてほしい。 ・「子どもの権利条約」や、その中でうたわれている「子どもの権利」について学ぶ機会が、子どもにも教職員のみなさんにもあるとよいなと思う。 「１２」の質問にも通じる「意見表明権」を知ることで、学校全体が意見を言いやすい場所になっていくと思う。	

備考【「総合評価」における「評定」の基準】

Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

課題別評価表　　令和６年度

体　　育

R６活動計画	①生活リズムチェックやメディアコントロールを用い、家庭でも好ましい過ごし方を考える機会を設ける。 ②体力向上計画を基に体育科の授業の中での運動量の確保と運動の質の向上を図るとともに、外遊びを奨励する。
R６評価指標	①児童保護者アンケートで、「早寝・早起きをしている」「放課後や休みの日に、運動や外遊びをしている」「家庭で決めたテレビ・ゲーム・スマホの時間を守っている」と感じるが７５％以上。 ②５０ｍ走記録向上者数が５０％以上を目指す。
R６実施状況・達成度・評価・課題	・Ｒ５春からＲ６春で、体力テストの 50m 走記録向上者数が 50 ％を達成し、年度初めに目標を達成できたので、秋の記録測定は行わなかった。その代わりとして、外遊びチャレンジやなわとび検定を実施し、運動量の確保と質の向上を図った。 ・アンケート結果について 質問②よくできている 質問③保護者・教職員は○、児童△　懇談等で啓発を続ける。 質問④朝ご飯は、◎ 質問⑤児童○、保護者△　評価するにあたり、立場によって基準の設定が違う可能性があるのではないか。 質問⑥児童○、保護者○ ・生活リズムチェック・メディアコントロール…それぞれ年２回実施した。朝ご飯は、９割以上が食べて登校している。外遊びも去年よりも結果が上昇している。 ※手洗い・うがいがあまりできていない状況…業間・昼休み・給食前に呼びかけて指導する。 ・外遊びチャレンジ・縄跳びジャンプウィーク…効果が見られる。令和７年度は、達成率の目標も設定する。	【総合評価】 B
R６学校関係者評価	・外遊びをする児童を増やすために、教職員が進んで外に出て、子どもたちとかかわる雰囲気づくりに努めてほしい。 ・運動場で遊んでいる児童は、元気でのびのび生き生きしているので、見ていて微笑ましい。 ・「早寝・早起き・あさごはん」は、家族の協力も必要であるが、ほとんどの児童ができているのでよかった。 ・教職員からの「外遊びや運動量の確保」と子どもや保護者の類似質問との差は、、見えている世界の違いだと思うが、家庭では、本人たちが期待するほどは、体を動かして遊んでいないように思う。家庭の忙しさ、昔に比べて室内での遊びがたくさんあるなど、いろいろな要因があると思うが、これまで以上に、学校で体を動かす時間をつくる必要があると感じた。	

備考【「総合評価」における「評定」の基準】

Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった